

其上、人は見る眼前には心ざし有とも、さしはなれぬれば、心はわすれずともさてこそ候に、去いヌル文永十一年より今年こんねん

弘安元年まではすでに五カ年が間、此山中に候に、佐渡の国より三度まで夫をつかわす、いくらほどの御心ざしぞ。

大地よりもあつく大海よりもふかき御心ざしぞかし。釈迦如来は我薩埵王子たりし時うへたる虎に身をかい(飼)し功德、

尸毗王とありし時鳩のために身をかへし功德をば、我末の代かくのごとく法華経を信ぜん人にゆづらむとこそ、

多宝・十方の仏の御前にては申せ給しか。

(弘安元年七月二十八日)